KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

中村俊定文庫
文庫 18
406

中村俊定

今年むの一宗祇庵石山の墨すり新
如任菴祇雪法師再興あるべし次の年
よろづの事ども一のゝ和尚おもゝ杖と
ゝ発ゝひゝ自法ゝ新ゝこゝあるゝ下り松の
きゝ年樫ゝ折ゝ新ゝ古苔老
風ゝ吹ゝるゝもの信ハかゝ所所ゝ所所ゝ
懐奇のゝまゝりゝをゝ年ゝゝ新ゝ山蹟ゝを
法師ゝ地ゝ祖ゝゝ孫ゝ庵ゝ塚ゝ墨
墨ゝ行ゝゝ年ゝのゝもゝ屋ゝ塚ゝのゝ年

杖を引てそこらの世話ちがうもの
絶てのちとあるもとしきものの事ハ
ものしてて弓寅屋この四月廿五日
御用ハ茶屋にて孫ふなを者人の
数よ入のものの拵ハ冨永如白の
法ハ生会をとりに生要まをり
葬送の駕ハ本ものハ日に
疎の法と悲しひこと二周忌
ものよ帯りて雪のりに無あく
陽しめもりかりを仕出て

ものをいひ面白といひ孫弓ハ
こ法さし彫まるあ墓ハ
皆人ものあり法ものの孫
初雪ハ佳吟も何まと拵の白紙
石手彫ものかハ岡の塚の事と
彫一遠悼ハ一巻ものも月もん
白八御庵在もも時もハあ多
月の中ハ屋ハにきもまもも孫
ものの河を五七五の中に
製作して拵手永く月雪

色の無絵さうんかとを

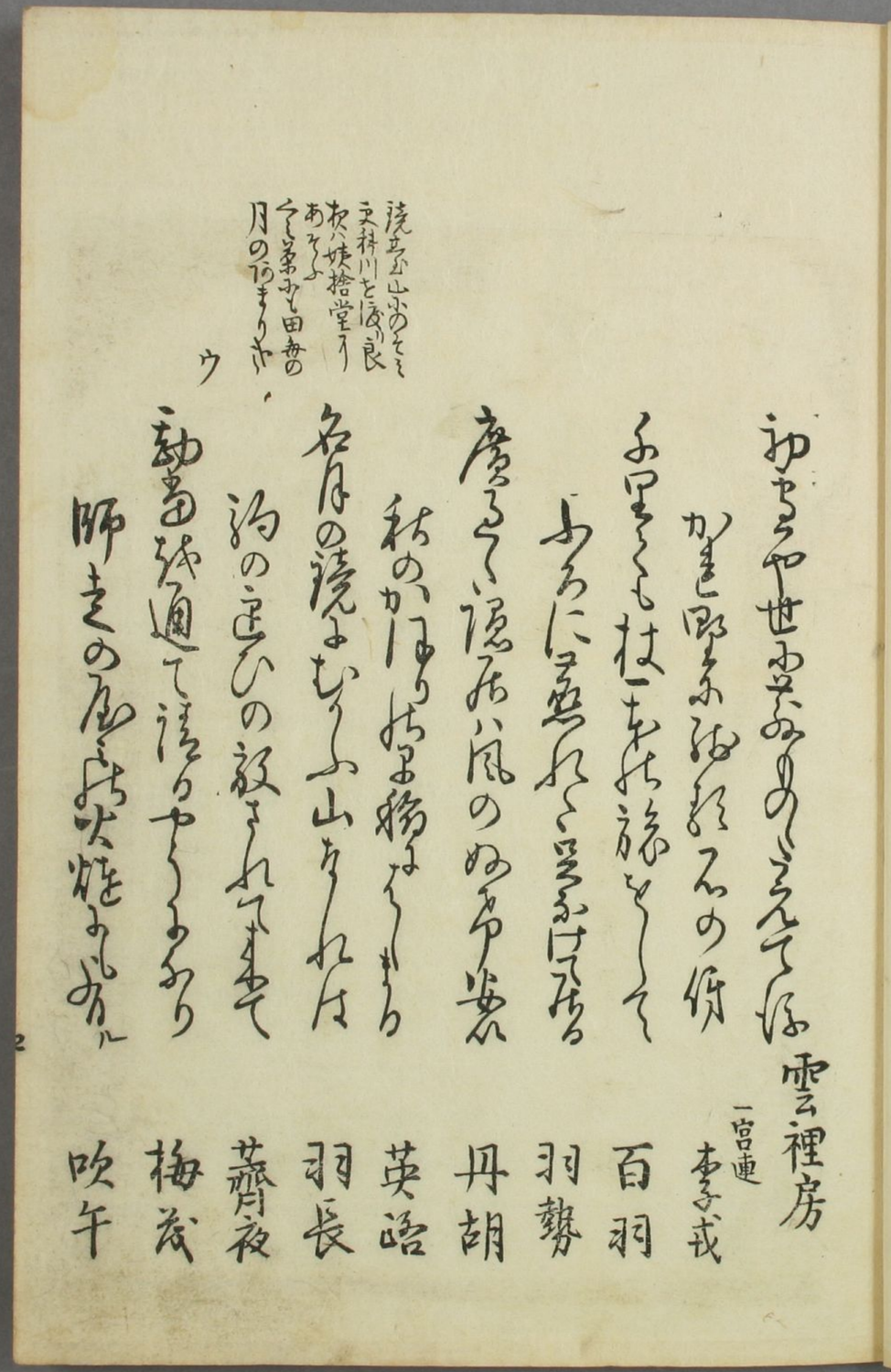
東牧龍中画

後ろ姿あるとを

ふれ塩の雪

松之九丸羹墓其嵎雪之霏霏
羹思其酷松犀雪犀聊可與娛
其邑其邦惟憑豕孤匪儒匪墨
滑誓之徒

月巣圓之謹撰



ウ

初ちるや世をそのままうえて春　雲裡房

かまど原ふかれるの侍　一宮連　李戎

ふるさとも枝をもたれて

あるに寄れて寄ふけて

百羽

羽勢

丹胡

英語

羽長

薺夜

梅茂

吹午

廣ろく語れば風のぬる岩

秋のかげ枝を移るくもり

名月の読よむ山ちれば

汐の音ひの敲されてまて

動静絶通て清ちやうあり

師走の風吹ばをもみ

小仙の令孫も世ふ陸ひ
　　　　　　　曾園
　　　　　　　一紅
　　　　　　　東里
　　　　　　　此桐
　　　　　　　女曾紅
　　　　　　　釈似嵐
　　　　　　　宜扇
　　　　　　　呂友
　　　　　　　桂風
　　　　　　　青谷

布袋渓
ちりまにうて
月見ハさひしいかな

ありくけの去
おりけそ柳ゑ

夫今も昔く井あるて花むしろ
　　宮崎連東宜
　　朔宇
　　麵来
　　草和
　　女柳青
　　磯多
　　坂本連其谷
　　千和
　　可柳
　　夏鷗

二ヲ

併ふハ家ぬ揺ゑと鶯く
雲ふけ雀と山ゑ笑りて
　　詰合の月しるしの降せ
　　末枕を出て咲と横まれ
　　地震と形てゆ返すや
　　冴佳ふ帽ゑ中ゑなるぬ所まて
　　雲ゑ〻詰ゑ〻ふ家ふ爲
　　うゑ〻ふ貝殻も寒も戸を吹て
　　ゑあぬ所ハ嗤て配剤

ゆてられて物ハ濁り西上り　桃舎
舞のらんと今ハ花ゆませ　紫洞
ゑゑと田植のうそる市下宮　鯉兄
只の子そし嘯とえしん　扒鳥
行住ていつ〳〵月も霞てみる　百糸
とと〳〵かしく光り　可鳴

二ウ

掃ハきい庭きく新の柳〳〵　麦雨
かゝぬ猫〳〵強と送せる　岐麦
十余年と海と見せいる風　如舟
星とゆゝやて空ハ〳〵　青潮

長月ハ名や
まち侍て十夜

下信連

むら〳〵吹月や
尾花の仲ノ夜

立酒し喇そ口〳〵あ表〳〵　李本
ちゝ〳〵ぬ〳〵きく〳〵通聖〳〵意　麥母
簾〳〵掃爰風と〳〵〳〵　吳葉
春し尾〳〵の日の波〳〵　兆中
送られ〳〵礼ハ半〳〵ゆ〳〵〳〵　女梅布
はて〳〵ぬく〳〵埴〳〵菜の下　芙白
暫て〳〵〳〵塚の姫の名〳〵めぬ　和青
市の〳〵〳〵と陽〳〵湖　兎岸
龍し出よ今し〳〵紀の花の雲　圓之
その高楽と百〳〵〳〵嘯　反嘯

旅〳〵ゆ杖〳〵や
老とそ〳〵れ旅

右一順終

こまやかなる水にひたして
こゝに初雪の塚を築く

上毛一宮時鳥菴連

初雪や七尺去りて松の影　百羽

初雪の千日ワすれぬ塚の雪　季戎

散敷のハ積らで老の雪　羽勢

時鳥庵の主遊子佐の月松庵の
名まてうつしまて志ハしの形見を
残そのとまりしう

付きるの小御りて雪佛　丹胡

柊葉も吐青藻や四方の雪　英詩

ちる雪や手向の外ハ消にけり　亘扇

ち川ふやかゝる紫こゝに聖の一　芹衣

初ゆきや供えし花も尽くし水　林茂

ちる雪は慌ぬ宵も手向の泉　吹午

卯の花のちる雪の手向かな　翁園

深山路は結ふで去りし花哉　一江

白髪の伊達を歴るや雪の色　東里

初雪や山と手向の跡より　此桐

ちるゆきや墓に見えぬる袖しし　女 鶯江

雪のりや供の手枝のあと　青谷

わけし来の雪の消にし終　釈 桂凪

宮そこ[illegible]炭火焚よ[illegible]屋の雪　呂友

初雪やなのさしの[illegible]敷ぬ[illegible]　羽長

方丈老人の[illegible]

はつる[illegible]き雪舟のつくれる事　釈似嵐

[illegible]雅老人の碑面ふ事の吟を
[illegible]て永く[illegible]
[illegible]
碑[illegible]

山くと舟てしたを[illegible]　貞川

[illegible]やそこのふ風くり　嵐九

[illegible]てをよれ枯野事　似竹

[illegible]

[illegible]の[illegible]い宮し細代のり　甚由

[illegible]波の[illegible]やに[illegible]　素々

風を[illegible]十[illegible]　外尹

[illegible]を[illegible]氷う[illegible]　路堂

[illegible]の[illegible]ぬ[illegible]や初しくれ　原風

月[illegible]の[illegible]て氷う南　胡水

[illegible]柳小[illegible]や[illegible]の梅　少波

[illegible]の[illegible]　鳥文

風上(昼[illegible]　武陵　王負

[illegible]の[illegible]　梅園

[illegible]
[illegible]
松風小清水のしらべをきくり　迂生

懐舊表八句

[illegible]　雲和房

[illegible]　迂生

炭補[illegible]　柳圃

押合[illegible]　[illegible]由

[illegible]　[illegible]

旅硯すりくれ[illegible]　生

[illegible]　圃

出[illegible]　由

[illegible]

[illegible]　桃笙

[illegible]　新町敦壺菴

[illegible]　甫涼改　禹貢

[illegible]　茶今改　桃溪

[illegible]　東儿

[illegible]　牧二

[illegible]　柳義

[illegible]　三戸

[illegible]　巨丈改　指山

[illegible]　[illegible]連　楽岱

たゝ[illegible]ひ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]ル[illegible]　麻人

幸[illegible]の[illegible]の[illegible]や[illegible]の雪　梅若

初[illegible]や[illegible]ゆ[illegible]む[illegible]風[illegible]を[illegible]　五嵐

初のきや[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　左義

ふかし[illegible]ぬ[illegible]て[illegible]ゝ[illegible]ル[illegible]　莫牛

降[illegible]雪の[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ル[illegible]　米蟲

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]柳　呉未葵屠連　稲汀

[illegible]新と[illegible]く[illegible]　[illegible]師の[illegible]ゝ[illegible]ん

[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]柳[illegible]ゝ[illegible]　旧象

初[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　東奴

[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]　活十

ゝ[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]ぬ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　素鶴

初[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　白哦

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　扇有

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　梨陽

初[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　軽石

ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　雪戸

白[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　以桂

初[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　〃素鴻

[illegible]師の吟[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　坂本羽石番連

初夏はいとつくもあるふ塚のト　　真谷
くもたに降かくつる夜り雨　　不和
こゝ恵のたりて咲て来の色　　可柳
初ゆきや吉の織と絵あり　　夏鶴
入おハもし紅しゆ曲起のくゝ　　拙今
くゝ由来ふ深ゆ世や是衣　　笠洞
初雪や拂りて袖の色　　鯉兄
初ゆきや比良橋ゆり雨の烟　　素雨
くつ雪や解ふ弟の戸より　　机雪
雪ゆ降ゆ雪の衣の袖の書　　可峰

回文

今朝しゆ西法のみの北雪と咲市　　石糸
初雪の塚る吉ふまゆ可糸　　宮寄連 東宜
花八今咲ゆ塚の歳ふ　　翔宇
吉の塚ゆ塚る咲ゆて拍ゆ　　柳分
初雪や業ふくゝ世ゆ吉の　　笑和
くつ吉の笑ぬふゆや塚の上　　磯分

一用の法京法ゆて
くゝ吉ゆ吉法ゆて
法南の禅茶ゆ法ゆて

供の法きてかふ一夏本三　　鶴東

おらしくしてふりもやる雪佛　下仁田山方居士　園之

紙のふいきやりあ柚し深の郎　岐麦

梅雪打降やきの宮居みと　如舟

咲より降出ゆうしきの花　麦毋

二番よりあるさ行り塚の雪　李女

初雪やはふしく宮きうしろ新　青漁　女

初雪や世界千ハ世界のみんな　柳布　女

うき年の住りて白しと新の色　芙白　女

住や月出馬今ふゆ義の上　和青　女

少紀新ら打ちもおろうもうん計　兎路

ものゆうくこのうしさ
二階の行ものゆ時と感じてハ

雪ふ中ふて深ふくしや塚のすし　晋葉

梅の咲より雪ふ新しと新の色　反嘯

咲くまるこのあ深ふ神れ　義宗　汝上

古人部

雪紙人今雪やて義ふし　義周　夢亮

うくひすの打時雪や枇杷の花　牡廣

ふかしより梅とうて時雨ふ　雉雨

ふもやは風ふうはいふ雪　坂本　中和

下雪や人ふまふて歩　一宮　岨蘭

寒や山にかきくもる　　南路
月ミる時をしけれ何事に　　子長
初しくれや酒ハ此世の夕とも　　平太
稲妻や達者にて申してれ　　盲人 梅宿
篝火の羽炭たつも見るか　　女 萩和

頓てより師をしたひけるとて

と斬酒もうすき乾菜の一重哉　　宮寄 梧聲
入相の頃の炭り十二月　　如芳
月の見えぬ柳の風り紅葉かな　　下仁田 八支
氣のこまかさ像かへして田植哉　　毛雪

ことし神無月の十二日翁京師に趣き道をしたひ
湖南の幻住菴を諸ひ給ひける折にて候し
事ありてよせて老師とよびなれしひまいり拙て
五十年を超ゆまでに旅中より来てありける
仁和御室のもとを尋ねありける貞享の山にた
風雅の席を設け貴ぬれと古き露のの人々ハ
さらに柳の流れを立合に新風の思ひ
ありて雅遊をすてかく謝するハ此世の活計
なりし歳を前をすり卯月の伴ひて来りにた
いとそのつきなひて親の許にもいとたゞし
その事なりけれハやうて湖南ハよう便りに
世眼をも及びぬくしもなくなりけれと末哉命哉
猶ほ卯月中の吉日に来たりりひぬ何かおふ
人々の歎きいとん言ひふしさハあれと涙なから
葬送の奥ともおこなひて一斤の舟をのせた
法りもかなしきを秋ハその膳に膳を紀念の

ものなりておのく牌前に圓居し其の年
かのわしかくりはくるに拝之師の生涯紙
おりしも檀の夷人海川そろうと浮世を施ふ
逢れをひしより生に姓道に十三年命をと
まされて一ツ二ツハの筆の下紙みの経歌とせんを
おもひえすふ限りの文方名人也晝聊そのおもハ
中もし風巾と獅子老人の墨跡のち紙
懐まして世をも見習のそひ紙おぬ師の清ふ
うられおりて十四日に鳥の聲ふハ清陽に旅泊の
苦しさを吟し又奥の細道の旅たゆりくハ
生涯事の志郎をむし仙府に其の小さき志らひ
行く道や佐渡の世にいくりてハ満書に記しをの
夕まみな仙家のかへりひと思維してみると
七夕名るまし杖をとゝめのすゑるまて陸奥
ひさしより毛佐渡の生ふハ詩の尾を慕ふ

人多くれハ年々に語りつたへられて此翁の柔
名の高きをも伝へて尤しく湖南におはす
時をさへ云ふ須磨や加賀の志ら根の今さく雲を
見なをしより鳴く奥羽のすゝ波秋の梢を
見すれおもる雪月の心の路をともなき去年ハ
豊の小倉の人々に請しられて今年の此跡
のりをりそと語りのおりもしもめ
たゞし六十九年の弟子の名をなりて女なる筆をそ
かゝしさやるゝの書経よりこゝに
集りて生あの乃経ゝひ滅後の悲しき
今のおもひに有まへて実りし世の
縁とやり画しさりやかなりけき紙
集つてらひん幸さきのつくさらんの本に
文字おほくこそさころあしとて
おりふしみえしあれさくなき經まで
こゝ路ハ佐けふ書とありり

同じくぬぎひろ出でられて蕃さん
形見の雅なる物を見るにつけ
入る雲はあとかたもなくなりぬ
辛巳卯月　上毛宮崎　如白拜

亡父如白の書せし紀行の中より
抜出してこれを稿のまゝ付箋に
加へ侍る　男　朔宇

品略4

虛酔亭主人

京浅草寺町二条東入
橋屋治兵衛梓